

平成 30 年度第 2 回香美市ものづくり会議
議事録（要約）

日時；平成 31 年 3 月 19 日（火）10：00～12：00

場所；香美市役所 3 階会議室 1

出席者

委員；〔高知工科大学地域連携機構副機構長〕浜田正彦、〔香美市商工会長〕寺村勉、〔香美市商工事務局長〕吉村宏、〔香美市観光協会長〕依光陽一郎、〔NPO 法人いなかみ〕近藤純次、〔㈱土佐山田ショッピングセンター代表取締役社長〕石川靖、〔㈱ものべみらい取締役〕鷺谷徹、〔高知県地域産業振興監〕前田和彦

香美市；〔市長〕法光院晶一、〔副市長〕今田博明、〔企画財政課長〕川田学、〔農林課長〕西本恭久、〔商工観光課長〕竹崎澄人、〔商工観光課班長〕石元幸司〔定住推進課長〕中山繁美、〔定住推進課〕村田理恵

（敬称略）

1. 開会（中山）

2. 会長挨拶（浜田）

3. 議事

1. 分科会の報告について

(1) フラフ

吉村；資料に沿って報告、補足説明

秦山公園に 5 本、セレネに 3 本フラフを掲揚するが、見に来てもらうだけでは、発信力が弱い。来た時に写真を撮ってもらい、その写真をそのまま送ってもらいたいと考えている。交流人口の増加を狙い、表彰式、副賞等も香美市に来ていただく賞を設けたい。香美市のフラフを多くの人に知ってもらうこと、フラフの子供、地域を育てていくという意味をこめて、ポロシャツにプリントして、それをみんなで着たらどうかと思った。予算がないので、ポロシャツをみんなで購入をして盛り上げたい。

フォトコンテストでどこまで発信力が高まるか不明だが、フラフを見た子供が欲しいと思ってもらえれば、フラフ事業者と需要にプラスになると思う。今年は大型連休があるので、この期間内に足を運んでもらった方にぜひ応募してもらいたい。その他賞は、あっと驚くようなことをしたい。例えば、こども賞は子供たちと一緒に

に給食を食べるとか。賞状はフラフで作った賞状を考えている。

村田；フォトコンテストについて説明

中山；補足説明

フォトコンテストのその他賞の団体は、各団体に打診をして、ほぼ了解をいただいている。こども賞の香美市立大宮小学校も、ランチルームの使用を教育長に了承済み。ポロシャツも市長はじめ、関係団体で購入していただき、夏に着用し宣伝したい。

(2) 物部川ブランド

石川；資料に沿って調査報告

物部町の神池、影仙頭、大西・和久保で、サツマイモの高系イモが出てきた。高系イモは白系のイモなので、物部の在来の芋でイモケンピを作れたらと考えている。イモケンピの材料は、ほとんどが白イモ系のコガネセンガン。イモケンピを、物部の材料で作ってみたい。

3月12日に、問屋も含めて神池に苗のお願いに行った。去年は農作物が不作で、種芋がほとんどなかったが、種芋の確保と苗をたてるお願いした。その苗で香北町、土佐山田町の農家の方に試験栽培をお願いしたいと思う。今年は、ケンピに出来る量はできないかもしれないが、収穫後は試食をして増産、商品化に向けていきたい。最終的には芋焼酎が面白いと思う。県内で芋焼酎を作っている会社が宿毛市にあるが、芋10キロで600円での取引らしい。芋で作った焼酎を、徳島県の祖谷から買いに来ていたと大西の調査で聞いた。物部では焼酎を作り売っていた昔の物語をベースに、焼酎を造りたい。

現地調査を通して、一商業者として、絶対に触れることがなかった在来作物に触れることが出来た。今後は、少しでも市場に投入できるような仕組みが出来たらと思う。

高知カンパーニュブルワリーの瀬戸口氏のビールが、ジャパン・グレートビア・アワーズで金賞、銀賞を受賞した。「週に1度はTOSACOで乾杯」のキャッチフレーズで行こうと思うので、皆さんにはご愛飲をお願いしたい。

(3) 土佐打刃物

浜田会長：

高知県の開発審議会で、開発許可の申請、建築確認等も進み、予定通りのスケジュールで進んでいると思う。予算も県、市で確保して、学校運営費も当初予算に計上しているので、予定通り進んでいけたら。

石元；資料に沿って説明

前田；

県議会が本日閉会し、「鍛冶屋創生塾」関連の予算は承認されている。今後の運営方針は、県、市、またアドバイザーの活用も含めて運営委員会で検討する。

2. 意見交換

(1) フラフ

寺村；

次のステップとして、子供が産まれてフラフを買って揚げたいが、住宅事情等のために断念する人がいると思うので、ここをどうにかしたい。前回、地区や近所の協力を得て、公民館でフラフを揚げたらどうか？と話したが、一気にそこまでいかないと思うので、手前の仕掛けが欲しい。どこか公共の場所に、名前入りのフラフを揚げても構わない取組を検討するのが次のステップと思う。

また、フラフをもっと身近に感じ好感を持ってもらうために、絵柄の種類がたくさんあればいいと思う。事業者によると、武者絵がメインで、そんなに種類があるわけではなく一定決まっているらしい。例えば、ヤシーパークで、スターウォーズのフラフを掲揚した時は、国際デザインカレッジの学生がフラフのデザインをした。フラフの基本姿勢はそのままに、もう少し絵柄が自由に出来ると、絵柄の部分でPRできる部分があると思う。

吉村；

掲揚する場所は分科会でも議論があった。例えば、馬路村では、「馬路村・鯉のぼり揚げ隊」というフラフ、鯉のぼりの揚げ降ろしの代行サービスがある。揚げ降ろしの代行、場所を含め議論をしなくてはいけない。また、スポーツの応援旗、イベントのシンボリック的なことに使えないか等、新たな需要の開拓をしていきたい。

浜田会長；

フラフは、綿に手染めでなので値段が少し高い。本来なら無理だが、よさこいの時にプリントで重さも軽くなると、事業者と相談してやってもらった。軽いプリントで値段も手ごろなものを揚げる。どちらを揚げても趣旨は同じ。ふるさと納税の返礼品は3割なので、寄付金が10万円必要。そこをもう少し安くすると寄付もしやすいと思う。その辺は事業者との話し合いになると思うが。

中山；

フラフの掲揚場所は、公共施設であれば、秦山公園に新品を3本、お古を2本掲揚する予定。2本掲揚する場所なら子供が産まれても揚げられない人が、フラフを揚げるのが可能と思う。

近藤；

寺村副会長の話を聞いて思ったが、地域には課題もアイデアもたくさんあるが、プレイヤー不足で、移住者を呼び込むことになる。今後は、うまく企画を出来る人をつないでいくことが重要と思う。現状、アイデアを出したらその人が実行するという風潮があるが、そうなるといいアイデアが出てこない悪循環に陥る。以前、土佐山アカデミーの話聞いた時に、課題を見つける人、アイデアを出す人、実行する人を分けたらスッキリするのではと思った。

移住促進の立場からすると、公開してもいいアイデアがあれば、投げてもらいストックした上で、やりませんか？という流れが出来たら、面白い人が来るかもしれない。こんな課題に対して、こんなアイデアが出ているというのがあれば、教えて欲しい。土佐山アカデミーの場合は、お宝マップみたいに地図にして、ここに課題があって、アイデアがあって、誰かやらない？という風になっている。ちゃんと見たらこんなものがある、というように分かるようにしたい。

浜田会長；

そのアイデアの発信は、いなかみがするの？

近藤；

いなかみでも、市が発信してもいいと思う

前田；

近藤さんが言ったのは、全体を束ねて企画、プロデュースをすることだと思う。

フラフ事業者が3人3様なら難しいかも知れないが、1つの団体で情報発信や営業を活動したらいいかもしれない。

寺村；

フラフ事業者は3人3様で、フラフの課題を共有する形はなさそう。

前田；

情報発信は、個々ですると限界がある。組織でやると広がりが出ると思うが、3事業者の個性がバラバラなこともいいこと。

市長；

デザインは事業者の個性があるが、時代に合ったデザイン等どうするか、知らない人の感心を引くための情報発信など、3事業者が少しまとまりを持ってもらえたらと思う。

ものづくり会議の始動後、3事業者が協力しようと話をしたらしいが、今まではこんなことはなかった。

前田；

三原村のどぶろくは、各々の事業者が営業しているが、それでは限界がある。そこで組合を作り、6本セットで販売したところ売れており、加工品を作るなど地域アクションプランにも挙げている。ブランドは自己流でもいいので、販売や宣伝を一緒にすることも必要だと思う

市長；

従来と違ったフラフの使い方は、事業者にお願いしても、なかなか出てこないと思うので、デザインや作り手は外の力を借りる。そうして派生商品を作ると面白いと思う。高校生も古いフラフを活用しているが、もっと使えると思う。古いフラフを捨てず、使えるようにしたい。

前田；

(株)ものべみらいが、ヤシーパークでスターウォーズのフラフを掲揚した時のように、

デザインする人がいたら確実に認知度が上がっていく。

市長；

写真で注目してもらうことも、情報発信が出来るのでいいと思うが、フラフのデザイン大会をするのはどうか？新しいフラフのデザインを生み出すこともいいと思う。

鷺谷；

フラフは業界の大御所がいて、絵柄、使い方等指図すると思っていたが、それがなかったことに驚いた。フラフを広めることはどうにでもなると思うが、絵柄等の基準がないことが問題で、新たな発想が進めにくいと思う。3者3様なら一定のものを作り広げていくのがいいと思う。古いフラフはドラマがあるので、歳を重ねた際に、もう一度引っ張りだして見ると改めて感慨深いものがあると思う。

市長；

フラフが何たるかを元に戻さないといけない。

中山；

武者絵以外にも、野球やアンパンマン等の絵柄の希望があれば、鍵山染工場は作ってくれる。

(2) 物部川ブランド

浜田会長；

当初は伝統野菜の保存活動がメインと思っていた。サツマイモ、豆類、お茶の3点に絞っているが、一定産業化が出来る目処がついているのか？

石川；

目処が付いているわけではない。注力する作物を絞る上で、物流はきゅうりが多いが、いろんな人が作っており名前を付けにくく候補からはずした。

高系イモ(サツマイモ)は独特で、物部町のいろんな所で作っていて、使い方は焼酎や、キリコという粉にしてキリコモチにしている。ただ、キリコにする場所が物部町にはなく、南国市のホームセンターゆうきち。キリコはキリコモチにして、伝統的な催事に使われているようだが、少しでも流通に乗せたい。キリコで醤油を作っている人もいて、焼酎、キリコモチを含めて、調味料の可能性があると思う。

物部町は、山内家の時代に高知にお茶がなく、初めて作られたエリアのひとつ。大抜茶、蕪生茶の産地だったらしい。神池には茶畑が広がっており、大栃高校の茶園が神池にあったようだ。観光協会も大抜茶、蕪生茶をべふ峡温泉で出して、お土産に出来たらと話していた。

ハチマキ大豆は、物部町しか作っていないが、可能性は未知数。神池の為近さん、竹田伝さんが少し持っている。大豆なので、豆腐、味噌等は勿論、スイーツや和菓子にも使えると思う。地域では、チュンマメという素朴な食べ方があるが、少し違う形のものにもチャレンジできたらと思う。

神池に行った際、地域の資源の掘り起こしや加工品などは、集落活動センターでしたらいいと話が出た。神池の人たちは、神池のものとして在来野菜など出したい気持ちもあるが、年齢などもあるので集落活動センターであるのがいいと話していた。

浜田会長；

古いものを復活させて、将来的に1つの産業に出来たらと思う。神池の田んぼなどは、外から若い人が来て耕しているのを見たことがある。

中山；

当初予算で、活力づくり支援事業費補助金を当初予算で約50万円を県に予算要求している。31年度は物部の地域づくり支援員を中心に、物部町の資源の掘り起こしをしていきたい。神池からも、別々の会に何度も行くより、集落活動センターのワークショップ等で一緒にしてほしいと意見もある。

(3) 土佐打刃物

寺村；

これから議論が必要なものは、「鍛冶屋創生塾」の書体とかロゴをカチッと決めること。卒業した生徒が、ロゴを使い商品化、ブランド化し発信していく。結果として、「鍛冶屋創生塾」のブランドの構築、学校の継続に繋がっていくと思う。

浜田会長；

ハード部分は、法的なものをクリアすれば一定は出来上がると思うが、「鍛冶屋創生塾」の運営や建物そのものは、人材育成の手段。香美市の土佐打刃物産業全体の議論をしないといけない。

先般、(有)坂本鉄工所の坂本さんと、同社が土佐打刃物から手を引くと、鍛冶屋が困るなどと話した。関係企業も含めて、議論をしないと産業そのものが成り立たない。

竹崎；

ハード面も出来ながら、鍛冶屋創生塾の開校後の運営もいい方向に行けばいいと思う。そのために、色々考えていくことが必要。

前田；

研修生の入口と出口をしっかりと考える。入口は、住宅など福利厚生的なものをしっかりと。出口は、卒業後にどういう風に芽が出るか。2年後のフォローを今から考えないといけない。また、高知県立林業大学校との連携も考えた方がいいと思う。

浜田会長；

31年度の分科会は、その辺を掘り下げて議論をしていきたい。

近藤；

卒業した研修生は、独立することが前提になると思うが、独立時に設備をイチから揃える投資が必要という認識でいいのか？それとも、設備が使える場所があるのか知りたい。

竹崎；

事業者や土佐刃物連合組合では「鍛冶屋バンク」を考えている。県内で鍛造をしている人が、後継者がいない等で廃業を考えている人の施設をいくつか構えているので、紹介しマッチングする予定。卒業後のやり方は、独立だけではない。

3-1. その他（第一次産業）

浜田；資料について説明

国が地方の大学を支援する補助金があり、高知県では「Next 次世代型」が採択になった。次世代農業は、コンピューターやビッグデータを集積してやっていく。

実施予定のことは、資料 2 枚目の赤で囲んだ土地を借り受けてハウスを建て、バイオマス置き、バイオマスの熱とバイオマスで出来た電力を売る計画。補助金で実施するので、実際に売電は出来ないが、売電と今まで重油等でまかっていた部分を、ハウスの廃熱を使い作物を作り、作物を売買して収入構造を良くする。将来的に、ハウスも AI や IoT を活用したものになると思う。このプロジェクトは高知大学、高知工科大学、農業技術センターで実施予定。香美市は、香南市、南国市に比べてハウスが弱いので、取組を加速したいと思う。また、林業を活用しないといけないので、木材以外にもチップにして加工品で生産を高められたら。時代はこのように進んでいることを認識していただきたい。

3-2. その他（ふるさと納税分科会の提案）

浜田会長；

香美市のふるさと納税額が減少し、香南市が増加している。広い意味でのものづくりを考えた場合、産業構造を広げる必要があるが、一定量がないと取扱不可など、需要と供給の関係がからんでくる。ふるさと納税のメリットは、①定価で扱える②売り切れ御免ですみ、需要があり供給がなくても成り立つ③広報も出品手数料も不要のため、事業者がやり易い。そこから基盤を強くしていきたい。

ものづくりをする上で、市は予算がないと動けないので、自由な発想で予算を獲得したい。分科会を作り協議をして、寄付額がある程度を超える提案が出来たら、その何%かをものづくり会議にいただきたい。そうすれば企業的な会計が可能と思うので検討いただきたい。スピード感があるお金の使い方をして、ものづくりのための視察や開発に充てたい。

中山；

ふるさと納税は、こういうことに使って欲しいという寄付者の思いがあるので難しいと思う。別枠で補助金を出す等ならいいかもしれないが。

浜田会長；

その辺は検討いただき、行政的にスピード感を持った出し方が出来ないかと思う。

寄付額増加のために、民間の英知を出し、分科会はきちんとする必要がある。お金は二次的な部分で、産業の基盤、芽を出す手段としてやりたい。

市長；

ものづくり会議の立ち上げの時に、ものづくり会議に補助金としてお金を出す方が、必要な所にスムーズにお金が行くのではないかと副市長と話していた。必要な所にお金を出せる判断が出来れば、もっと機動的に出来るのではと考えている。お金の出所は、ふるさと納税か別でするかは考えて行きたい。行政は計画が必要で、納得がいくような形にしてからでないやりづらい。ものづくり会議が早くやった方がいいと認めたものがあれば、やったらいいと思う。

浜田会長；

市長を含めて内部的に検討いただけるとありがたい。

副市長；

一般会計で組むのか、ものづくり会議に会計を持たして補助金として出すのか、どちらかになると思う。

3-3. その他

中山；

ジャパン・グレートビア・アワーズで、高知カンパーニュブルワリーの和醸ケルシュが金賞、こめホワイトエールが銀賞に選ばれた。

高知家ビジネスプランコンテスト 2018 では、集落活動センター美良布の部会「むすぶ」の大葉のしずくが、優秀賞に選ばれ賞金 50 万円を獲得した。今後は、商品化をして売りたいと考えている。

県の補助金を活用して、集落活動センター美良布のワークショップで生まれた、茶作りプロジェクトが野草茶の商品化と販売に向けて、にろうまいこがロールかるかんの商品化に向けて動いている。また、山田高校の生徒が、香北町のおかべのまんじゅう復活プロジェクトで、31 年度の商品化に向けて集落活動センター美良布と一緒に動く予定。

吉村；

同コンテストで、(株)コチコチの土佐酒バーも優秀賞に選ばれた。県外からの移住者で、土佐山田町西町に在住らしい。商工会には未加入だが、高知龍馬空港、JR 高知駅、高知新港で土佐酒バーをするらしい。

市長；

土佐山田町には、ナッツバター専門店のダダナッツバターや、洋菓子店のプルメリアラクーンもある。新しい人が出てくるのはありがたい。

浜田会長；

色々な芽が出ているので大事にしながら、必要に応じてものづくり会議に参加を依頼し、話を聞く場を設け、町に認知されてものづくりが進めばと思う。

4. 分科会のあり方検討

浜田会長；

ものづくり委員は、各団体の代表者が多く、審議会方式で行政が決めたことに意見を
する方式では、ものづくりができないので分科会にした。ただ、分科会も委員の集まり
なので、物部川ブランド的に、必要に応じて委員以外の人を分科会に入れて協議をする
方式にしたい。委員は、年に数回のものづくり会議本会議に参加し意見を言うのはどう
か？分科会の座長は、委員の中から選ぶようにしたい。

中山；

現在の分科会でも、フラフ、土佐打刃物の分科会も、必要に応じて事業者に参加して
いただいている。

浜田会長；

ものづくり会議は、団体も行政機関の1つとして動いている。必要に応じて事業者を
呼べばいいが、中に入って自ら汗をかくこととは少し違うと思う。

利害関係がなかったら、また競争社会の中でやらないとモノは生まれない。行政は失敗
がダメな世界だが、ものづくりは失敗をしても到達点のイメージがあり、情報などあら
ゆるものを統合させてモノを作るしかない。

石川さんは片手間でやらず、自分のイメージがあると思うので、企業人として大事に
して欲しい。他人が考えたイメージを行政がすると、行政が忙しくなった時はできない、
またついて来られなくなると思う。分科会で自分達が考え、提案し、どうするかを市長
が判断して欲しい。

市長；

ものづくり会議が必要な提案に補助を出すように、自由に使える資金があれば、もう
少し進みやすくなると思う。石川さんが神池で芋の苗がなかったと言っていたが、芋の
増産を考えたい時に資金がなく、実験をする為に今は協力者をお願いするしかない状況。
これくらいの資金でこれをしたという提案を、ものづくり会議で審議して、承認され
て資金が出たら、動きやすく協力者に気を遣わなくてもいい。

ものづくり会議がここまでなら資金を出していいのでは？と審議、承認をして、行政
の枠を少し離れた形なら自由度が増すと思う。

浜田会長；

分科会は4~5人程度で開催しているが、退かれる方も何人かいると思う。その辺は、
分科会の中で座長に任せたい。担当課も当事者も、みんなで得をするようにやって行き
たい。6月~7月にもものづくり会議を開いて、31年度の形を作っていきたいと思う。

5. 閉会